

大所川報告

【山行日】平成 27 年 7 月 2 日～3 日

【参加者】C L 辻本 S L 橋本 小倉 岸野 会員外 1 名

前夜発で上信越道をゆっくりと進む。12 時を過ぎ長野 I C を通過し、道の駅「サンサンパーク 白馬」で仮眠をとった。時間は深夜 1 時。薄っすらと月明かりが見えていた。

年寄りの行動は早い。あっという間に朝食、テント片付けと済み、体調と共同荷物を整え、いざ大所川のテン場に向かう。大糸線沿いに車は進み、姫川温泉のある平岩駅から蓮華温泉への林道を行く。途中、車を止められ 1 日釣り券を、二人分 4 千円払うことになる。山菜採りなら千円らしい。釣りとは言わず「蓮華温泉へ行く」と言えばタダだった。悔やむ。

蓮華温泉への道を外れ、聞いていたチェーンゲートを暗証番号で無事、通過。

大所川沿いの発電所用の道に入り、崩壊現場まで行けるだけ行こうと、ダート道を快調に進ませる。どこでストップになるかとハラハラしたが、2 ヶ所の崩壊現場は工事が完了していた。

ヒル平沢に架かる橋まで無事に到着。2 時間の林道歩きがなく助かった。

沢は増水し、轟々と音を立て、まるで滝のようだ。

写真では比較できないが、大岩のゴー口である。

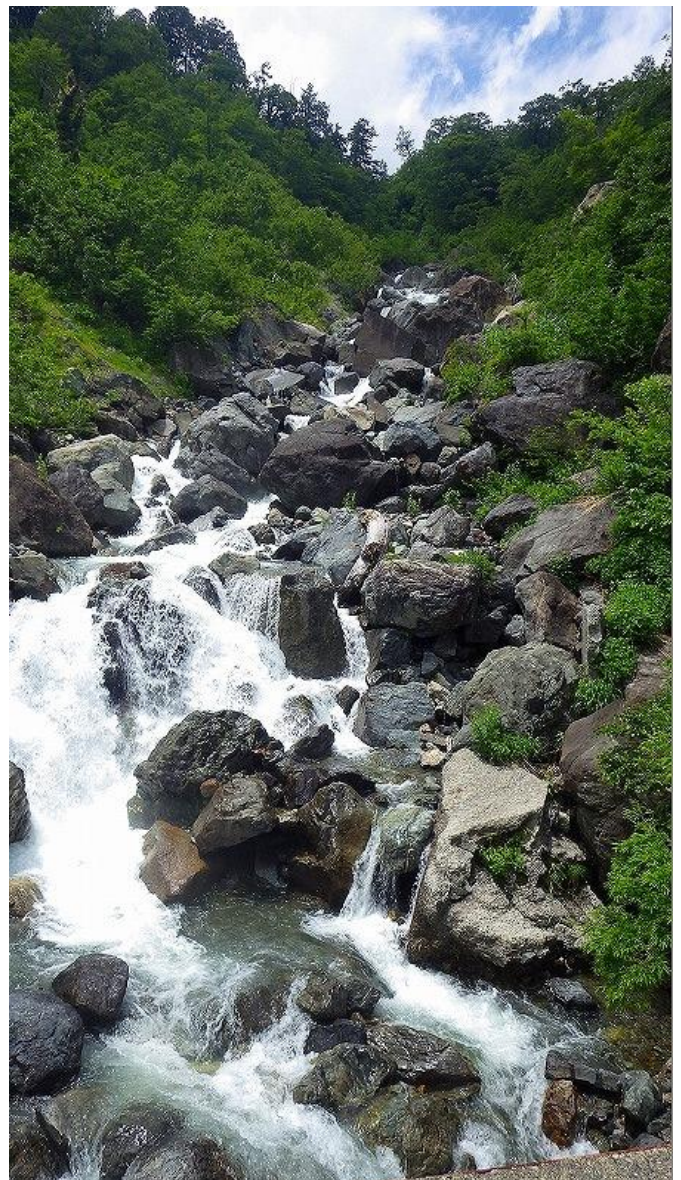
沢靴に履き替え、釣竿とビニール袋を背に 100m のゴー口を登る。甘かった。釣りだと考えヘルメット、ザイル、ハーネスなど沢登り必携グッズを身に付けていなかった。増水のため水流には入れず、岩を越すことが困難で、木の枝を掴み、泥斜面に足を突っ込みして登る。

途中、釜に竿を入れ釣りタイム。尺弱の岩魚 2 匹を釣り上げる。釣り歴 20 年の猛者はルアーを投入するが釣果はなし。餌釣りの仕掛けは持って来なかったとのこと。この激流でルアー、テンカラは無理。

瀑沢を上がり、平らな瀬になると行者ニンニク探し。山路はあるのにニンニクは見当たらない。

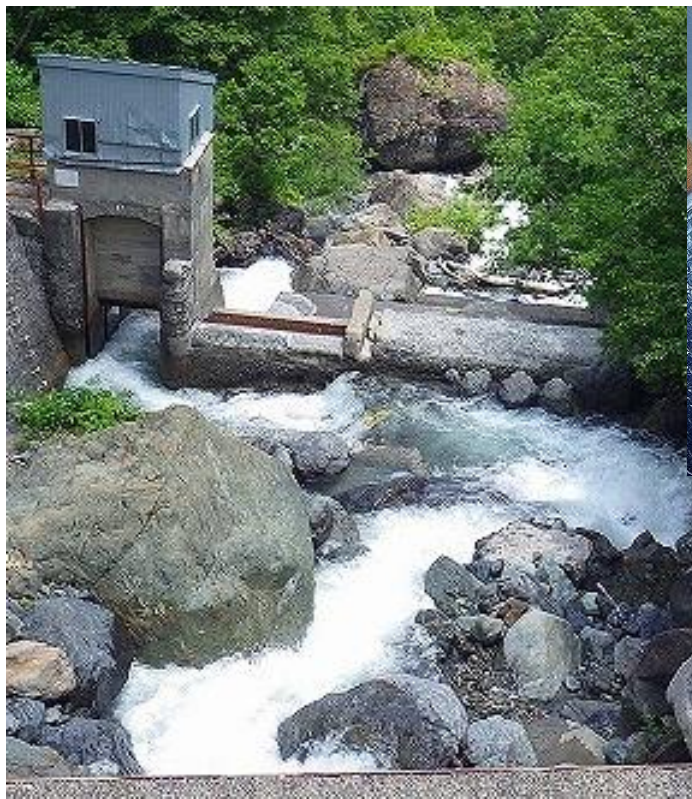
沢の土手に 4 本だけあった。これだけ……。

実は場所を間違えていた。もっと上流で、滝が出るまで遡行し、その滝の斜面にあると後で聞いた。袋に入りきらないほどの収穫を期待したのに（泣）山路をいっぱい採り、行者ニンニク 4 本と岩魚 2 匹を土産に、テン場に戻った。



大岩のゴー口帯 100m

ザイルを持っていないので、大岩のゴー口を下りるのは危険と判断。地形図を読み、林道に向かって右岸の、それほど密ではない藪山を下山。昼過ぎにはテン場に戻ることができた。林道に落ちる枝沢で水を確保し、テン場は快適そのもの。さっそく焚火の準備にかかる。



下流部も激流



焼き加減Good!



岩魚の塩焼き、牛の行者ニンニク炒め、イノシシ鍋、野菜などなど食材豊富!

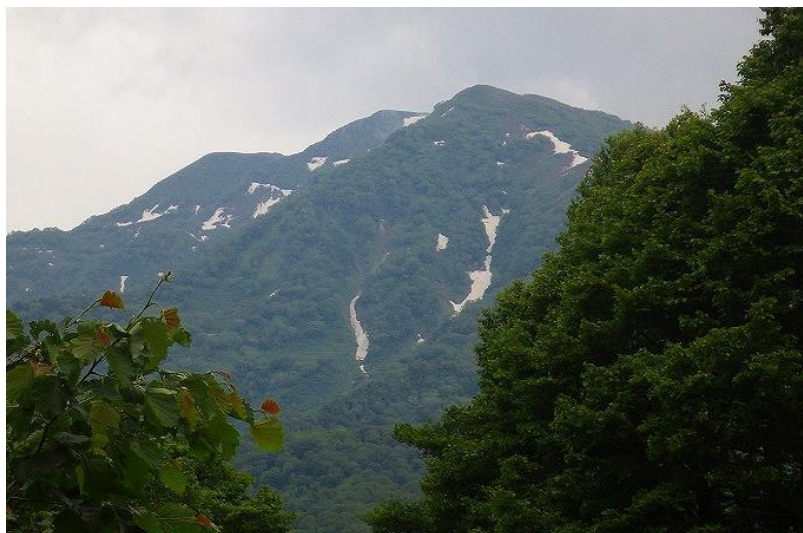
激流に佇むばかり暮蛙
一と刻を焚き火にまかせ半夏生

焚き火が燃えると宴会が始まった。午後 3 時。牛の行者ニンニク炒め。イノシシ鍋。岩魚の塩焼き。アルコールは日本酒 1 升、ウヰスキーがメイン。ビールは林道歩きを考慮し、350ml が各自 1 缶しか持っていなかった。1 匹 2 千円の岩魚の塩焼き！骨酒も作った。イノシシ鍋も旨い！笑子さんが作ってくれた沢庵や野菜の数々。こんな豪華な山料理は知らない・・・。



まだ明るいのに宴会。酔っ払いモード

眠った、眠った 12 時間！！ 目が覚めれば 5 時。水も引いたし、絶好の釣りタイム。しかし釣らしてくれない。「早く片付けて車で下流に行き、大所川本流で釣ろう」となった。遠く山を上げば、朝日岳と思っていた山が登山地図で確認すると、乗鞍岳であることが分かった。まだまだ雪渓も残っている。今日は釣らずに蓮華温泉でも行くかな～。と思っているうち、テントも焚き火も跡形もなく片付いた。いざ下山。



白馬 乗鞍岳

本流は大きかった。餌釣りの竿ではとどかない。渡りたくとも急湍すぎて単独渡渉は怖い。これこそ集団渡渉訓練の現場であった。ひとしきりポイントらしき場所を歩いたが、一向に釣れない。諦めて温泉行とした。まず姫川温泉の無料露天風呂で汗を流し（集落内の温泉）日本海に出た。上越市まで北上する途中の、長者温泉で体を洗い、能生の街で海鮮昼食を摂る。あとは一路、千葉へ帰るのみ。

今回は行者ニクニクの群生地を間違え淋しい収穫だったが、それを倍する素晴らしい料理の数々であった。未練を残しながら、また行こうと誓い、大所川を去った。

記：辻本